



三木高大 自治会新聞

平成 28 年 3 月号 (No. 120)

発行 三木市高齢者大学学生自治会
発行責任者 自治会会長 立石 勲
編集者 自治会新聞編集委員会
発行日 平成 28 年 3 月 8 日

<http://koureisyaigaiku.cccp.jp>

高大の思い出

二十四節季の一つ「啓蟄」も過ぎ、早や春の息吹を感じる頃となりました。私たち第 23 期生 (MKD24) 52 名は、もうすぐ三木市高齢者大学を卒業します。4 年前、みずほの郷にさわやかな春風が吹き抜ける中、校庭の満開の桜と多くの皆さんに祝福を受け、期待に胸膨らませながら入学したのを昨日のように思い出す。



三木市高齢者大学は「社会において豊かな経験を積んだ人達が、同じ立場で楽しく学び、遊び、その交流を通して常に高きものをめざして、お互いの人生を豊かにしていこうという人達の集まりである」とされている。正にその通り、豊富な経験と高い見識をもった人達ばかりで圧倒された。こんなすばらしい友と学び、交流できるのだと、心わくわくで大学生活をスタートした。

大学であり、教養課程をもっと勉強するものだと思っていた。五大大行事やクラブ活動がほとんどで、遊びと交流が中心の大学生活であった。毎年同じ行事の繰り返しであったが、学年ごとに多くの思い出を作ることができた。

中でも「体育祭」は、競技成績よりむしろ応援合戦に熱が入り、夏休み返上で練習したことは交流が深まり、強い絆をさらに太くすることにつながった。最後の 4 年生で「みずほ応援大賞」をいただいたことは大変うれしいことであった。応援合戦の演技は、幼稚園児が楽しむ「パラバルーン」とし、曲は「手のひらを太陽に」で、みんな童心にかえって楽しんだ。



〔みずほ応援大賞の「パラバルーン」〕

グラウンド・ゴルフ大会では、3 年生で団体優勝し、個人的にもまぐれで 3 年連続の入賞をさせていただいたことも良き思い出である。

4 年間の思い出での一番はやはり卒業旅行である。青森県中西部の 2 泊 3 日の旅は、梅雨時にも関わらず天候に恵まれ、事故もなく、実に楽しいものであった。中でも、新緑の美しい「奥入瀬溪流」を散策したり、誰もがあまり行くことのない世界遺産の「白神山地」やローカル列車「リゾートしらかみ号」から眺めた日本海、石川さゆりの「津軽海峡冬景色」の歌が流れる「龍飛崎」などは特に印象に残っている。



〔「津軽海峡冬景色」が流れる歌詞碑前
＝津軽半島最北端・龍飛崎＝〕

ただ、都合によりどうしても参加できなかった友がいたことは今でも残念に思えてならない。

振り返ってみれば、いずれも懐かしい思い出ばかり。

70 歳にして、こんなに素晴らしい人生に出会えるとは夢にも思わなかった。

岩波学長様はじめ事務局の先生方、在校生の皆様、お世話になりました。ありがとうございました。お別れです。

副会長 4 年 2 班 岩波 勉

卒業生に贈る言葉

この間入学して、先輩とお会いしたと思いますのに、お別れの時が近づいてまいりました。私たちの入学時に、温かい眼差しと、心温まる言葉を掛けて頂き、ホットした気持ちになったことを今でも忘れることはありません。



卒業が近づくにつれて、「あっという間に過ぎてしまったな。また会おう」等と、今までのことが走馬灯のように思い出されて、寂しさもあるが楽しい会話が交わされていることと思います。私達後輩から見ると、春季スポーツデー、体育祭での闘志一杯で競技に取り組む姿、特に、応援合戦では一致団結しての素晴らし演技、春・秋の研修旅行、大学祭での企画、運営面でのリーダーシップは見事というほかありません。五大大行事以外でも自治会活動、クラブ活動、ボランティア活動、奉仕活動等を積極的に行い、献身的に地域社会に溶け込んでおられました。これはおそらく役員のリードもさることながら、皆様の一致団結、協力の賜物でしょう。

卒業を迎え、大学院を目指す人、新しい目標に挑戦する人と道は分かれると思いますが、大学で得た知識と経験を生かして更なる活躍を願っています。その為には健康にご留意され、心豊かにお暮しくください。私ども在校生一同、諸先輩の残された良き伝統をさらに発展させることをお誓いし、贈る言葉とさせていただきます。

自治会副会長 3年2班 漁 晴毅

大学祭の結果報告

新たな取り組みをした第24回

第24回大学祭は2月20日と21日の両日、盛況に開催することができました。

今回は、学生から公募してポスターを作成しました。応募点数は3点と少なかったものの新しい道を拓くことが出来ました。

式典会場の進行についてもスライドを使用せず、司会者のみで行いました。この結果、打ち合わせ時間が不要になり、また、司会進行中も映像に合わせるための待つ時間が短縮でき、予想以上にプログラムがスムーズに進行していきましました。

今回、みずほ交流キャンプにおける子どもたちの作品のうち、水墨画を展示しました。地元からの依頼で自治会が受け、新しいつながりになりました。

大学祭に向けてトイレ掃除も新しい試みでおもてなしを実践出来ました。参加していただいた女性高大生の皆様に感謝申し上げます。

大学祭の内容につきましては、例年の通り、楽しく、和気あいあいと語りあう場面も多くみられ、学内外をつなぐコミュニティの大切さを感じました。

演技や展示は、日頃の活動を映し出した熱演あり、秀作ありと受け止められます。

活動状況紹介パネルも見ていただいたお客様に訴える内容があります。地域での話題にさせていただきたいです。

大学祭実施には高大生のすべてが参加しないと出来ない重要な行事です。皆様の熱意が続くことを願っています。

大学祭実行委員長 3年4班 徳田 均



〔 第24回大学祭ポスター 〕

教養講座だより

「子どもへの関わり」を受講して

ひょうごラジオカレッジ

井上 雄司 様

井上先生の現役時代の苦労話、経歴の豊かさによる多彩なお話しに、子育てを終えて幾年もたちますが聞き入りました。現職の教師の方々にも聞いて欲しいとも思います。

子どもを取り巻く環境は、大きく変わっています。学校の授業内容、子どもたちの屋外での遊び方、時間の減少等々が体力不足につながり運動会での組体操での事故多発や怪我につながっているのではないのでしょうか。

また、子どもへの見知らぬ人への対応の仕方や学校教育の影響もあってか、集団登校で集まっている生徒たちに朝の挨拶の声をかけても、返事をする子がいません。

近くの公園などで危ない事をしている子どもを見かけたら見て見ぬふりをせず、注意の声をかけられる様に心がけています。

孫たちに高大に入学したと言うと、「何を、勉強しにいくの」なんて笑って言いますが。「いつまでも頭を使わなかったら何も楽しいことも新しい友人も作れないので、あなたたちもしっかり勉強してね」と言っているところです。

1年1班 小林 房江



クラブ活動の原稿は自主的な投稿へ！！

次号4月21日発行の121号から

大学祭の自治会新聞のパネル及び学内の掲示板に掲出の資料で、ご存じの方もおられると思います。自治会新聞のクラブ紹介の記事が、大きく義務から権利へと変わります。

クラブにとって、大事なクラブ紹介が、掲載の順番を待たず、リアルタイムに発信することが出来ます。その反面、原稿を作成し期日までに（約1～2か月）新聞編集委員に提出しなければ掲載されません。クラブ長が原稿を作成し、発信する姿勢を持たないと、クラブ紹介は、これまでのように行われなくなります。

もし、そうなったら、どうしようかが、編集企画会議で討議され、自治会員（学生）から原稿を投稿してもらおう、人物紹介の他に、ボランティア活動、私の趣味、故郷紹介、郷土料理（おいしい店も）の紹介、イベントの情報等々、トピックスも掲載しよう。そんな案が出ています。

でも、大事なのは、紙面を埋める記事を作成するのではなく、クラブ長の熱い想いでクラブ紹介の記事を寄稿して頂き、良い紙面づくりをしたい一心です。

自治会新聞編集委員会は、クラブ活動を活発にし、ボランティア活動の充実を発信し、三木市高齢者大学の学生自治を支える役割を重視したいと考えています。

それが無理なら、自治会員（学生）の熱い想いの原稿を記事にしよう、それが、自治会新聞の紙面の充実につながるのではないか。

現在、三木市高齢者大学のホームページでは、1年間の自治会新聞を掲載しています。ぜひ、サイトを訪れてください。

自治会新聞編集委員会



3月1日の編集委員会

ク ラ フ 紹 介

コーラスクラブ「カトレア」

瑞穂の空に 流れる歌は カトレアのように美しく
歌おう 歌おう声合わせて……………

クラブの歌が、体育館に響き渡り、美しいカトレアをデザインしたコーラス部のマークが譜面表紙を飾っています。

私達コーラス部員は、このマークに結集し、この部歌にコーラスのハーモニーの美しさ、楽しさ、健やかさを求め歌い続けています。

年明けの1月21日、古民家「和輪笑」で新年会を行いました。部員一人一人が思い出の歌、一番好きな歌を発表しました。今年で39回を迎える三木市合唱祭の第1回に出場した田坂美佐子さんの思い出！今の指導者吉田直子先生に変わって最初に歌った「翼をください」の河原美那子さんの思い出！絵本を見ながらいつも歌っていた小阪順子さんの「赤い靴」の思い出。

発表が終わると、どこことなく「赤い靴 はいてた 女の子……………」の合唱が古民家の煤けた大きな梁に染込み、冬の田圃に流れました。

コーラスを愛する私達は、いつまでも歌い続けます。いつまでも元気に！

コーラスクラブ「カトレア」部長 2年5班 上原 守



グラウンド・ゴルフクラブ

グラウンド・ゴルフは、現在高齢者や職場レクリエーション、ファミリースポーツとして幅広い年齢層の人々に楽しまれています。

高大においても、五だ行事の一つである春季スポーツデーの種目として実施されて11年、皆さんに親しまれているスポーツです。現在、部員は、高大生30名とOB80名の110名となっています。

毎週金曜日、加佐ふれあい広場において、午前9時から約2時間、参加者（約40名）全員で楽しくプレーしています。

道具が無い方でも、クラブ所有の道具がありますので、誰でも参加できます。ぜひ参加してください。

クラブの行事として、グラウンド・ゴルフ大会を年4回実施。

ボランティア活動として、みずほ交流キャンプ体験プログラムや、瑞穂地域との親善交流グラウンド・ゴルフ大会に参加しています。皆さんの入部をお待ちしています。

グラウンド・ゴルフクラブ部長 4年5班 後藤 憲秀

